



Title	センター長退任にあたって
Author(s)	宮原, 秀夫
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1998, 108, p. 2-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66264
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

センター長退任にあたって

宮原 秀夫

1995年4月からの3年間センター長として勤めさせていただいた間に、センターにとって次の3つの大きな変化がありました。その第1は、大阪大学情報通信システム（ODINS）の第2期整備であり、ODINSが大容量・高速になったこと、第2にセンターの主力マシンであるスーパーコンピュータがリプレースされ、処理能力がそれまでと比べて数十倍になったこと、そして第3に、長年にわたって使用してきた、いわゆる汎用機使用をやめて、新しくUNIX系の並列計算機を導入したことです。

ODINSの2期整備によってキャンパス・バックボーン・ネットワークは確かに高速かつ大容量になりましたが、予算の関係で学部内LANの拡充整備まで至らず、ご不便をおかけしました。しかしその後各学部のご努力により、徐々に接続が進んでおります。

スーパーコンピュータの更新（SX-3からSX-4へのリプレース）によって、ターナラウンド・タイムが大きく改善され、その結果それまで減少傾向にあった利用者数が急増に転じました。また、特にレーザ核融合研究センターおよび核物理研究センターとはODINSの超高速のATM回線を介してセンターのマシンと接続し、それぞれのサイトからCPUを占有使用していただけるようにしました。

長年にわたって使用し続けてきた、いわゆるACOS-OSの文化を捨てて、すべてUNIX系に移行することについては、かなりの勇気が必要でした。ユーザを含むセンタースタッフの幾重にもわたる議論の結果、現在の並列計算機、エグゼンプラーを導入するに至りました。

以上からもご理解いただけるように、現在のセンターに要求される機能は、もはやその名が表しているような大型の汎用計算機を中心としたものではなく、並列分散処理機能、ネットワークセンター機能、データベース・マルチメディアセンター機能と、センターが担当しなければならない分野は今後ますます拡大の一步をたどることと思います。その点において、学内の図書館、情報処理教育センターなどとの連携もきわめて重要な課題だと考えます。

最後に、3年間つつがなくセンター長を勤めることができたのは、ひとえにセンター職員皆様方のご支援のお陰だと心から感謝申し上げます。また関係各位のセンターへの変わらぬご支援をお願いし、退任のご挨拶といたします。